

| 会 議 録  |                |  |     |                           |
|--|----------------|--|-----|---------------------------|
| 平成 25 年度第 2 回<br>社会教育委員の会議   | 日 時            | 平成 25 年 5 月 15 日 (水)<br>午前 9 時 30 分～11 時 30 分    | 場 所 | 小金井市第二庁舎<br>8 階 8 0 1 会議室 |
| 事務局  | 小金井市教育委員会生涯学習課 |  |     |                           |
| 出席者  | 委 員            | 本川議長、伊藤副議長、小林、佐野、樹、本多、松田 各委員<br>欠席 倉持、田尻、中村 各委員  |     |                           |
|  | その他            | 西田生涯学習部長、天野生涯学習課長、尾崎国体推進担当課長、<br>大関公民館長、上石図書館長補佐 |     |                           |
|  | 事務局            | 伊東生涯学習係主事  |     |                           |
| 傍聴の可否  | ◎可 ・ 一部不可 ・ 不可 | 傍聴者数   | 1 人 |                           |
| 傍聴不可・一部不可の場合の理由  |                |  |     |                           |
| 次 第  |                |  |     |                           |
| 1. 協議事項  |                |  |     |                           |
| (1) 社会教育関係団体への補助金交付について  |                |  |     |                           |
| (2) 地域文庫補助金交付について  |                |  |     |                           |
| (3) 三者懇談会について  |                |  |     |                           |
| (4) その他  |                |  |     |                           |
| 2. 報告事項  |                |  |     |                           |
| (1) スポーツ祭東京 2013 について  |                |  |     |                           |
| (2) 文化財センター企画展について   |                |  |     |                           |
| (3) 第 18 回ウオーキングフェスタ東京 ツーデーマーチについて   |                |  |     |                           |
| (4) その他  |                |  |     |                           |
| 1. 協議事項  |                |  |     |                           |
| (1) 社会教育関係団体への補助金交付について  |                |  |     |                           |
| (本川議長)   |                |  |     |                           |
| それでは、始めさせていただく。まず、資料確認を。   |                |  |     |                           |
| (天野生涯学習課長)   |                |  |     |                           |
| では、事務局のほうから資料の確認をさせていただく。  |                |  |     |                           |
| まず 1 点目が、本日の次第になる。その下が協議事項 1 の資料として「社会教育関係団体補助金交付一覧」、それから、その参考資料として申請書類、ホチキスどめのものがある。続いて、協議事項 2 の資料として「地域文庫補助金交付内訳」。当日配付のもので 1 個追加があって、地域文庫補助金の参考資料として「小金井市地域文庫補助金交付要綱」がある。その次が「(仮称) |                |  |     |                           |

小金井市生涯学習支援センターの創設に向けて」。

そのあとにあるのが、委員の方のみ配付している資料で、スポーツ祭東京2013の議案書。次が、報告事項(2)の資料である「文化財センター企画展について」。その次が、報告事項の3番目、「第18回ウオーキングフェスタ東京ツデーマーチについて」。

最後に、「月刊こうみんかん」が委員の方のみ配付をされている。

配付物については以上である。

(本川議長)

何か不足しているものはあるか。あったら、後ほど事務局のほうに、その都度でも結構なので、言っていただきたい。

それでは、部長、何かご挨拶はあるか。

(西田生涯学習部長)

特にない。

(本川議長)

よろしいか。それでは、ゴールデンウィークでリフレッシュして、第2回の協議事項に入らせていただく。それでは(1)社会教育関係団体への補助金交付について、よろしく願います。

(天野生涯学習課長)

平成25年度の社会教育関係団体補助金については、小金井吹奏楽団GREEN'S、それから、こがねいロケよび隊の2件である。詳細については、こちらの資料の一覧のとおりである。

資料の下段のほう、小金井市立小中学校PTA連合会、それから小金井市スカウト協議会は例年交付しているものであって、内訳等詳細については資料のとおりである。

(本川議長)

何か、ご質問はあるか。どうぞ。

(樹委員)

こがねいロケよび隊に、今回、補助することになった経緯等を教えていただければと思う。

(天野生涯学習課長)

こちらは、社会教育関係団体補助金交付要綱に基づいて交付しているもので、目的としては、社会教育団体が行う事業の経費の一部を補助するというものになっている。対象となる団体については、小金井市社会教育関係団体登録要綱の規定に基づいて登録されている団体で、登録してから1年以上の実績を持ち、かつ、構成員の2分の1以上の者が市内に在住、在勤または在学している団体という形になっている。そのような条件に基づいて審査した

結果、適正ということで補助をしたという形になっている。

(樹委員)

わかった。

(本川議長)

ちなみに、今回は、何件ぐらい交付の要請があったか。

(天野生涯学習課長)

今回はこの2団体という形である。

(本川議長)

ほかに何かあるか。なければ、これを交付することに何か意見の方、あるか。

(「異議なし」の声あり)

(本川議長)

異議はないということで、決議していただいた。

(天野生涯学習課長)

一応、こちら、冒頭で漏れていたけれども、第1回同様、社会教育法に基づいて社会委員の会議で意見を聞いてから行うということになっているので、今回、これに基づいて交付をさせていただきたいと思う。

(本川議長)

希望であるけれども、交付金を出す団体について、対象事業を実施されるときには、社会教育委員にもご案内をいただけるとうれしいかなと思う。

(天野生涯学習課長)

わかった。こちらの補助金については、交付した後、実績報告等もいただいているので、そのタイミングでこちらにもご報告できればと思う。

(本川議長)

よろしくお願いします。

それでは、先にまいる。地域文庫補助金交付について、ご説明をお願いします。

## (2) 地域文庫補助金交付について

(上石図書館長補佐)

それでは、平成25年度地域文庫補助金交付について説明する。社会教育法第13条で、社会教育団体への補助金交付に当たっては、社会教育委員の会議の意見を聞いて行わなければならないとされており、これに基づき協議をお願いしますものである。

図書館では、当日配付で申しわけなかったが、小金井市地域文庫補助金交付要綱に基づき読書普及活動の活発化を図るため、図書及び読書に関する研

究、調査、相談、講習その他の活動を行い、地域社会に奉仕する地域文庫に対して補助金を交付している。

資料にあるように、小金井市子ども文庫サークル連絡会に補助金を交付したいと思うが、小金井市子ども文庫サークル連絡会は、地域で活動している文庫サークルの7団体で構成されている。今年度については、こちらの補助対象事業、「子どもと本を結ぶ」ということで、金額3万円を交付したいと思っている。

説明は以上である。

(本川議長)

ありがとう。どうぞ。

(伊藤副議長)

ちょっと、この件についてよろしいか。7団体とおっしゃったけど、活動している場所は必ずしも図書館でなくともよいのか。例えば、児童館で読み聞かせをやっているとか、緑分館で読み聞かせをやっているとか、全部含めて7団体、そういうことであるか。

(上石図書館長補佐)

そのとおりである。

(本川議長)

ほかに何かご質問、大丈夫か。なければ、補助金交付について、異議がないということではいか。

(「異議なし」の声あり)

(3)三者懇談会について

(本川議長)

では、三者懇談会についてということで、5月29日に実施される三者懇談会、社会教育委員の会議と図書館協議会、それから、公民館運営審議会の三者懇談会という位置づけで開催されることが予定されている。このことについてであるが、事前の代表者打ち合わせ会を明日するので、実際の形態は、そこで少し打ち合わせさせていただくことになっている。懇談会について、主な話し合いが、ここに資料でお出しただいたけれども、教育長宛ての「(仮称)小金井市生涯学習支援センターの創設に向けて」ということで、皆様のご意見を伺いたいということで位置づけをしている。

これについては、過去、何回も協議を続け、検討委員会(三者の検討会)をして、このように整理させていただいている。

(伊藤副議長)

もう一度、再確認のために私のほうから読み上げる。(以下、省略)

(本川議長)

質問というか、どちらがいいかなというのを教えていただきたいと思ったのは、宛先で、「小金井市教育委員会教育長 津幡道夫殿」になっているけれども、これがよろしいのか、「小金井市教育長」、役職としてどちらが正しいか。

(西田生涯学習部長)

後でほかの書類とかを確認して、どちらの言い方もしているけれども、文書で出すときにどちらのほうが一般的かちょっと確認させてほしい。

(本川議長)

よろしく願います。前年度からの小委員会と、それから、本会議もこのことについてまとめようということで何度かやってまいったけれども、言葉の使い方とか、それから助詞、その他、もちろん内容についても、お気づきのことはあるか。今期のまとめとして、この提言を三者で出そうということで一致しているので、忌憚のないご意見を言っていただければと思う。

(伊藤副議長)

一応、この案を5月29日に再度全体の合同懇談会に、もう一度提示したらどうかなというつもりでいる。

(本川議長)

時系列としては、そこでいろいろ検討して、ご意見をいただいて、そして、もう1回確認、確認は各審議会承認していただかなければならないので、ちょっと時間的にずれはあるけれども、8月末をめどに各審議会承認をしていただきたいということを図書館長、公民館長にお願いしたいと思う。

ちょっと申し上げると、実は年に1回懇談会と会議をしているので、懇談会を会議に振りかえたいという希望はしていたけれども、1つの審議会の事情で、今回会議とすることができなかつた。ばらばらで承認という形になるので、ここのところは、審議する内容があるかと思うけれども、ぜひ機関決定に持って行っていただきたいと思う。

(佐野委員)

要するに、社会教育委員の会議では、これで了承するというのでいいのか。

(本川議長)

5月29日を踏まえて、その後させていただこうと思っている。

(佐野委員)

ということは、要するに、特別そこで異論がなければ、今日配っていただいた形でいかれるということか。

(伊藤副議長)

皆さんの総意がそうなったというふうに持っていきたいわけである。

(本川議長)

小林さん、どうぞ。

(小林委員)

こちらの提言の案については、図書館協議会のほうでも、4月に松尾会長のほうから、全協議会のメンバーに事前配付をしていただいているので、図書館協議会のほうでは、この資料は既にご覧の上で、29日の懇談会に出席する予定である。

それで、松尾会長のほうからも、もし、何か意見とかがあれば、懇談会に報告をするということもメモでいただいているけれども、後ほど報告するが、先日の図書館協議会では、これに対する意見ということは特に、ほかの内容があったものであるから、資料は目を通してということ、ご承知おきいただきたいと思います。

(本川議長)

ありがとう。館長、どうぞ。

(大関公民館長)

今、図書館協議会のお話があったので、公民館のほうでもお話をさせていただきますと、これを公運審に配らせていただき、何点か委員さんからご意見があった。多分、明日の打ち合わせ会のほうでお話があると思うけれども、一応、簡単に言うと、「拠点」という言葉を使っているが、これは、「機能」に変えたほうがいいんじゃないかという、ご意見があった。例えば、題目でも、「小金井市生涯学習支援センター機能の創設に向けて」というほうがいいのかという話があったので、報告をさせていただきます。

(本川議長)

ありがとう。

(西田生涯学習部長)

以前の社会教育委員の会議でも出たと思うけれども、いわゆる生涯学習支援センターというのは、何か物ができ上がるのかとか、そういった機能があればいいんだとかいう議論は確かにあって、基本的には機能があればいいんだというような話になっていたと思うので、多分、公民館の話もそっちのほうの話だったと思う。ビルが建つとか、そういうようなイメージというよりは、むしろ、そういう機能を持たせるほうが重要なので、何か、建物が建つというようなイメージになるという話は、以前もちょっと出ていたと思うので、その流れで公民館ではそういう話が出てきたのかなという気はしている。

(本川議長)

そうだろうと思う。その辺のことについては、ずっと三者の集まりの中でもお話をさせていただいているし、ここの文章の中に、建物というイメージ

ではなくて、情報を受発信できるような機能、市民が使いやすい機能を持った、そういうものをつくりたいというようなことが、そこここに織り込んだつもりである。表題としては、これが適切かどうかということは、29日の三者懇談会、それから、そのときのご意見をいただきながら、再度検討させていただこうかなと思っているが、いかがか。これを見ると、すぐ、建物と思うか。

(伊藤副議長)

1 ページの一番下の行が、目が一番いきやすいところである。ぱっと見た感じ、建物？ということになりそうな感じ。あとの文言は、うちのほうは全部「機能」になっている。「センター機能」という言い方に全部なっている。たまたま、ここだけ「(拠点)」ということになっているので、今、ちょっと気がついたところなので。

(大関公民館長)

「拠点」という言葉が幾つか出てきているので、拠点というと、やっぱり箱物というイメージにとられてしまうというか、この文書にある「拠点」は、三、四箇所出てくる。

(伊藤副議長)

出てきてたか。

(大関公民館長)

(1) の真ん中、「コーディネートする拠点」とか、一番下と、一番上の表題の下の4行目に、「その拠点の必要性について」とか、そこが何か気になっているみたいである。

(本川議長)

拠点を、実は場所という意味合いが非常に大きいけれども。

(伊藤副議長)

機能は、何て言ったらいいか、機能进行操作するところという意味なんだけど、何ていう言い方をしたらいいか。

(本川議長)

佐野委員、どうぞ。

(佐野委員)

今までの感覚だと思う。拠点というと何か建物を建てて、そこを中心にして何かを行っていくという、そういうような感覚というのは、今までずっとそういう形で来ているのではないかなと思うけれども、実際にこの機能を発揮させるためにはどうしたらいいのかというところまで考えていったときに、そういう空間が必要なのではないかという意味で、「拠点」という言葉を使っているというふうに私は理解をしている。

であるから、今までの感覚でいくと、拠点、センターを、小金井市生涯学習支援センターという、そういう言葉から思い起こすイメージというのは、何か建物を建ててというふうになっていくのではないかなと思う。

近隣のこういう名称がついたところを見てみると、必ずそこには大きな箱物が存在しているという、そういう感覚になってしまうけれども、それは今の小金井市の状況では、決してできるような状況にないし、その辺のところは冷静に考えていけば理解をしていただけるのではないかと私は思っている。  
(本川議長)

ほかに何かご意見はあるか。本多委員、どうぞ。

(本多委員)

拠点であり、発信する場所という意味になると、「センター」という言葉がついてくるかなと。発信するわけでもある、受けとめるだけではなくて。ちょっと、私もまだ頭の中ではまとまっていなくても。

(本川議長)

センターというのは、建物という意味ではなくて、中心になるところという理解で一応使っている。中心となる場所というのではなくて、そういう言い方はしていないけれども、ずっとそう言ってきたけど、それにもかかわらず、そういうご意見が出るということは、まだまだ理解していただけていないということなので、もう少し考えないといけないと個人的には思う。

(西田生涯学習部長)

いろいろな解釈ができるものがある場合だとかは、注釈みたいなのを付けて、これはこういうことを意味していると、ここで言うセンターは、こういう意味であるとかというのは、やることは結構ある。そうしないと、センターと書いてしまうとみんなのイメージが、いろいろばらばらに出てきて、一体何をしようとしているのかが結局わからないという話になるのを、市の計画なんかをつくるときには、そういうのを避けたいということで、なるべくイメージを集約する形で注釈をつけたりということはするという、参考までに申し上げたいと思う。

(本川議長)

ありがとう。拠点でもだめなのか。場所もだめである。空間ではしようがない。

(伊藤副議長)

機能を持たせるということは、当然、エリアを含めスペースが必要なわけである。まるっきり空間には、機能は存在しないわけだろう。

(佐野委員)

スペースという感じでもいいのではないかな。



(本川議長)

スペース、場所。

(佐野委員)

実際にそういうものを機能を集約して、じゃあどういう形でその機能を集約したのか。

(伊藤副議長)

スペースが大きくなると建物になるわけである。

(佐野委員)

スペースは必要だと思う。

(伊藤副議長)

当然ないと困る。

(佐野委員)

それが発揮できないと思う。

(伊藤副議長)

少なくとも、パソコン1台は絶対必要なのである。情報を集約するわけだから。

(西田生涯学習部長)

すまない。今まで、ずっと議論をお聞きしていた中で、多分、この中でも公民館でも、図書館なんかでも結局そうだと思うが、何か建物のにばかり目が向いてしまう、そういうことを言いたいのではなくて、そういうことをする機能をつくってほしいと、機能をつくるに当たっては、多少場所を使うかもしれないが、決してビルを建ててくれと言っているのではないんだと、そういう意味合いでずっときているんだろうなと思う。

だから、それを明確に書くにはどうしたらいいかということだが、行政への提言となると、建物を建ててくださいとか、そういう場所をつくってくださいというのは、場所をつくることばかりに集中し過ぎだが、今回の新しい、私にとっては結構新鮮だなと思うのは、建物がどうかということではなくて、そういう機能をつくってほしいと、機能を実現するために多少のスペースとかは要るかもしれないが、スペースをとってくれと言っているのが主眼ではなくて、機能をつくってくれというのが主眼だと、そこをうまく出せば。

(本川議長)

そのとおりであるが。

(西田生涯学習部長)

いいなと思うが、センターの創設と書くとそれが読みとれるかどうかというのが、多分、皆さんの今ひっかかっているところなのかなと、公民館でも

いみじくも出てきたので。すまない、余計なことをしゃべってしまい。そういうことで意見がいろいろと出ているんだろうなど。

(本川議長)

理解はできているが、社会教育委員の会議というのは、建物とかそういうものはない。図書館とか公民館はそれぞれ独自でそういうものを建物を持っていらっしゃるので、イメージ的にはそっちへ行ってしまうのかなという気がしないでもない。

ほんとうに私たちの拠点と言ったら、生涯学習課であって、いろいろな事務的なこともそこでしていただいている、支援していただいているわけだが、図書館とか公民館は箱がきちんとしたものがおありだから、どうしてもそういうイメージになるのかなということはあって、かなり言葉を尽くして説明しているし、意味合いももちろんご理解いただいた上で、そういうご意見が出てきているのかなと思うので、もう少し精査して、29日までには持っていきたいと思う。事前のことが29日出るということで想定させていただきたいと思う。何かいい知恵があったら教えていただきたい。

(佐野委員)

今、公民館長からお話をいただいてよかったと思う。要するに、29日にそういう話ではなくて、前もってこういう話が出ていたということを報告していただいたので、また、ここで意見をもめたのではないかなという、そういう意味で非常にありがたいと思う。

(本川議長)

明日の打ち合わせ会でも、多分今館長がおっしゃったようなことが出ると思うので、少しもんでもらうか。

(伊藤副議長)

でも、今日いいヒントをいただいたんで、これは、明日の代表者会で話し合いをしたい。表題はこのセンターの創設よりは、アイデアを頂戴して、センター機能という形で提案をしてみようかなとは思っているが、ただ、どういう話し合いになるかわからないが、やはり表題をより明確に表記したほうがいいと思う。

あと、文言の中の拠点の取り扱いについては、実はこの拠点というのは、こうこうこう使っていただきたいという形にするか、最初からこの文言を外して別の文言に入れかえるか、そのようなことを明日は三者の話し合いの中でお話ししていただこうと思っているが、よろしいか。ここで決めて結論を出すか。

(本川議長)

社会教育委員の会議としてはどうしたかということ。

(伊藤副議長)

そうか、そうだ、この委員会としては、一定の道しるべを出しといていただこう、方向づけを。

(本川議長)

今、部長さんが言われた生涯学習支援センターとはどういう意味かというのをまずうたっておいたらどうか、で、この言葉は残したほうがいいのではないか。

(伊藤副議長)

だから、それで具体的に言葉として、文言として、どのようにすればよいのか。

(本川議長)

ここのセンターという言葉を使っている大きな理由の1つには、いろいろな機関の中で、皆さん情報をたくさん持っていらっしゃる。それが横のつながりができているかどうかというのと、一々そこに行ったりとか、あっちへ行ったりと言われ一か所では済むことが少ない。

(伊藤副議長)

行くかそこに訪ねに行く。

(本川議長)

訪ねるかしないと。

(伊藤副議長)

でないと、情報が得られない。

(本川議長)

得られない部分が多いので、それを何とかネットワーク化して、1つの機能として大きなものでくくりをしたいという大きな意味があるので、そのセンターという言葉がどうしても出てきてしまっていたと思う。

(伊藤副議長)

だから、センター機能でよろしいじゃないか。センターは絶対必要。それをまとめるとセンターなんだから、それをまとめやすい機能をつくるんだということであれば、センター機能。

(佐野委員)

ここは(仮称)云々というところに、支援センター拠点の創設に向けてじゃないのか。

(伊藤副議長)

拠点じゃない。

(佐野委員)

ここがやはりポイントだと思う。

(伊藤副議長)

拠点ということは入っていない。

(佐野委員)

この建物をほしいということであれば、支援センター拠点の創設に向けてという形になると思うが、我々の目指しているものは、要するに、そういう箱物ではなくて、機能を重視しているから、もし、タイトルの言葉が非常に誤解されやすいのであれば、副議長がおっしゃったように、センター機能の創設に向けてと、直してもいいのかなど。ただ、要するに、最初に社会教育委員の会議でまとめたタイトルは生涯学習支援センターって、機能がついてなかったのではないかと思う。

(本川議長)

一番最初は、そうだった。このときも迷ってつけた。

(西田生涯学習部長)

だから、最初から、そういうイメージでやったわけじゃないと思う。だから、その辺もうまく整合性を図って、意見の集約を図れば良いと思う。

(本川議長)

ありがとう。もとに戻るが、生涯学習支援センターというのは、決して最初から箱物ではなくて、機能を持つ、持てる場所という意味合いだったのである。それが、不十分であればということで、機能というのは、今までもあるわけで、創設でいいのかなど、今出てきたが、少し考えさせていただいて、明日の代表者会で少しもんでみるということで、皆様には、29日の事前にこんなふうでいかがでしょうかということとは申し上げたいと思っているが、どうか。

今、ほんとうに的確な表現をいただければ、それを持って明日問いかけたと思うが、今、機能を入れるというのが1つあるが。

(小林委員)

タイトル、とても大事だと思う。センターと書かれているだけで、私たちは社会教育委員でずっと積み上げてきたし、小委員会をはじめ議論を重ねてきたし、その説明も受けているが、公運審、また図書館協議会、それぞれ自分の拠点と言えば拠点、場所を持っているので、ここに新たにセンターと書かれたところで、アレルギーではないが違和感というものが、また新しいものを考えているのかという、受けとめ方はさまざまあるかと思う。

もしこのタイトルで受ける印象というのがとても大事だと思うが、そうであるならば機能という言葉をも1つ入れただけで、そういう機能が必要なんだなということも、この説明に入っていけるのではないかという、最初の印象というところが大事ではないかと思うので、今、これまで話が出てきた機

能という言葉がタイトルに入っているかかなと思う。

(本川議長)

ありがとう。というご意見をいただいたが、皆様、さっきからのお話だと、機能が入っているほうがわかりやすいかなという。

(樹委員)

今回のこの提言案の2ページ目の一番最後にも「第3次生涯学習推進計画」、基本計画との整合性を図りつつ生涯学習支援センター機能の実現の道筋をつけるということが、私たちにとっては最大の目的であるわけなので、やはり、今小林委員も言われたように、タイトルにもこういう流れをつけたほうがわかりやすいのではないかと、1ページ目の拠点、拠点、拠点って出てくる、でも2ページ目の一番最後に私たちが望んでいるところはここなんだというのがちゃんと書いてあるので、やはりタイトルをここに合わせていくのがいいかなと思った。

(本川議長)

そうすると、思っていたのだが、創設というのが言葉的にはふつり合いかなと思うので、ここの最後のところ、最初と最後に生涯学習支援センター機能の実現ということで、実現に向けてという提言にもっていったらいかがかと、今思っておる。

提言に実現なんていうのも変か。質問ですまない。

(西田生涯学習部長)

提言って何か提言をしているわけだから、別に実現に向けた提言をしているわけだから、おかしくはないと思うが。

(本川議長)

そうすると、一番トップと最後のところでこの言葉を使わせていただく形でいかがか。明日そのように申し上げてみるが。

(伊藤副議長)

だから、あくまでも文章の中に拠点という言葉が3カ所出てくるが、これについては注釈をつけることにするか。

(本川議長)

いろいろご意見いただいて、ありがとう。そうしたら、そのような形で社会教育委員の会議としては、5月29日に向けて出してみるということで何かご異論あるか。

(「異議なし」の声あり)

(本川議長)

あと、三者懇談会の方法であるが、これがテーマになっている。方法については、明日の代表者会でご一任いただいてよろしいか。

(「お願いします」の声あり)

(本川議長)

何か、こうしたほうがいいのではないかというご意見があれば伺っておきたいと思う。特にないか。では、明日の打ち合わせ会でまとめさせていただきたいと思うので、どうぞよろしく。

(4)その他

(本川議長)

では、その他のところに移らせていただく。管外視察のことはどうなっているか。

(天野生涯学習課長)

当日配付させていただいた資料で小金井市立小・中学校行事・連合行事等日程表をごらんいただきたいと思う。

こちらの上から2番目、林間学校(小6年)と書いてあるところが、清里山荘で行う林間学校の日程になる。本日、田尻委員については、欠席ということであるが、校長会で諮っていただいた結果、どの学校でも受け入れオーケーだと報告をいただいているので、この表の2行目にある日程の中で委員の皆様の都合のつくところで視察を行いたいと思うので、ご協議いただきたいと思う。

(本川議長)

朝出発して、夕方には帰ってくるというスケジュールである。

(佐野委員)

1つの物の考え方であるが、ちょうど夏休み期間中である。だから、中央高速使っていくと思うので、土日は非常に混んでしまうのではないかなと思う。だから、できることなら平日のほうがスムーズに行って来られるのではないかなと思う。

(伊藤副議長)

それについてもう一つ、2点目として、林間学校のスタートの、いわゆる初日は避けたほうがよろしいのじゃないかなと思う。受け入れ体制、子供たちもいろいろあるだろうから、オリエンテーションから始まって、いろいろあると思うので、初日は外したほうがいかかと、だから、土日と初日を外すということではいかがか。何か、いい日がないか。

(本川議長)

事務局では、どこかだめだというところはあるか。

(天野生涯学習課長)

特段は、今の土日を避けていただくのと、あと最初の日ということだが、

同じく最終日も帰る時間とかがわからないので、今事務局でスケジュール的に何日目が都合がいいとかいうのは、条件があるかどうか確認をしているが、少なくとも、初日と最終日は避けたほうがいいのかというところだと思う。

(西田生涯学習部長)

あとは、2日目と3日目だが、ちらっと聞いたところによると、出先でお弁当を食べることと、山荘で昼食をとることがあるみたいなので、その辺の日程をどういうふうに合わせたほうがいいのかというのもあるのかと思う。

(本川議長)

以前、田尻先生にお伺いしたところによると、生徒数の少ないところだと食事をするのにもあいているところがあるから、子供たちが食べるものを一緒に食べることも可能だと、多いところだときついのか。そんなお話も伺わせていただいているが、聞いてみないとわからない。

(天野生涯学習課長)

学校によって、2日目に何やる、3日目に何やるというのが、おそらく事情があるかと思うので、例えばだが、この場では、どの学校の日とかいうところまで決めておいて、その後2日間のうちどちらにするかというのを学校と協議をした上で調整するという形がもしとれば、例えば、こちらでこの日と決めたとしても、山荘で昼食をとらない日だったりすると、結局、希望がかなわなくなってしまうので、まずは、学校だけ決めてしまって学校と調整というのもいいのかと思うが、いかがか。

(本川議長)

7月の本会議を振りかえるとすれば、7月中に実施するほうがいいのか。7月は本町小、緑小、南小、最後に一小がかかる。緑小も多いのか。

(伊藤副議長)

緑小。日にちはいいんだが、人数がどうかと、多いのではないかと。

(西田生涯学習部長)

本町小は少ない。

(伊藤副議長)

本川議長、本町小であれば22日。それから、緑小は25日の木曜日、それから、南小であれば、29日の月曜日、それから、一小であれば7月31日の水曜日。振りかえということで7月中に実施するとすればこういう候補がある。月曜日は役所は忙しいか。月末というのはどうなのか。

(西田生涯学習部長)

7月であったら、議会月ということでもないのでは、大丈夫だとは思う。

(本川議長)

学校の様子で決めさせていただいてよろしいか。候補日として今、4日間

挙げさせていただいたが、何かこの日はだめという方はいらっしゃるか。

(伊藤副議長)

もう1回言うが、最初。これは案である。一小の場合は7月31日の水曜日、それから、本町小学校の場合は7月22日の月曜日、緑小の場合は7月25日の木曜日で、南小は7月29日の月曜日という4つの案が出ている。この中でいずれにするか。学校との調整もあるので、一応4つの日にちについて皆様のご了解をいただければ、あとは事務局のほうから学校とお話をして進めていただくということで。

(本川議長)

それで進めさせていただくのでご一任いただきたい。お願いします。なるべく早く学校の予定を聞いていただき皆さんに流していただきたいと思う。

## 2. 報告事項

### (1) スポーツ祭東京2013について

(本川議長)

報告事項に移らせていただく。スポーツ祭東京2013についてということで、よろしくをお願いします。

(尾崎国体推進担当課長)

スポーツ祭東京2013について報告させていただく。

参考に、当日配付した議案書を用意しているので、ごらんいただきたいと思う。スポーツ祭東京2013小金井市実行委員会の第4回総会が平成25年4月27日午後3時から、小金井市市民会館萌え木ホールで開催された。

内容だが、次第をごらんいただきたいと思う。まず、報告事項が1件で、実行委員会委員及び役員の変更について報告した。次に、議事内容であるが、次第にあるように、議案第1号が役員の選任について、議案第2号及び第3号については、平成24年度の事業報告と収支決算について、議案第4号及び議案第5号については、平成25年度の事業計画(案)と収支予算(案)についてご審議いただき、全てご承認をいただいた。内容については、資料をごらんいただきたいと思う。

その他として、昨年開催された岐阜国体の模様を写真を使い、よくわかるように、プロジェクターを活用して視察の報告を行ったところである。報告は以上である。

それと、本日お配りしたチラシだが、4万枚程度印刷し、本日新聞折り込みで、正確な数字は覚えていないが、3万3,000枚ぐらいの配布をしている。私のほうからは以上である。

(本川議長)



ありがとう。

(尾崎国体推進担当課長)

あと、デザインについて、簡単に説明させていただく。まず、大きな絵があるが、これが小学校1年生が描いた、この間のポスターコンクールで最優秀賞をとったお子さんの絵で、そのほかの4点については、小学校低学年、中学年、高学年、中学生という順番で絵を掲載させていただき、市民参加のもとでこういったイベントをやるというお知らせをしていきたい。内容は以上である。

(本川議長)

だんだん大詰めで大変だ。

(尾崎国体推進担当課長)

それから、市民ボランティアの募集を行っており、5月15日、第1次募集が締め切りで、現在約26名の応募をいただき、そのほか20名程度応募いただけるという話がある。予定としては1日100名程度、延べ700名ということで、まだまだ足りない部分もあるが、また明日から第2次募集ということで、6月30日まで再度募集をかけていく。

(本川議長)

話題になったのだが、質問であるが、そういうボランティアは若い人でないとだめなのではないかとか、年寄りにもできることはあるのかとかいうことを言っている人がいたのを見た。

(尾崎国体推進担当課長)

基本的には年齢制限はないが、健康な方であれば、どなたでも大丈夫である。

(西田生涯学習部長)

一言でいうと、年はあまり関係ないということである。

(尾崎国体推進担当課長)

この後、大学生のボランティアとか、あと、スポーツ団体の体協さんとか、スポーツ推進委員さんとかに、また徐々にお声をかけていきたいとは思っている。

(本川議長)

余分なことかもしれないが、大学生は結構ばらばらになってしまう。意外と高校生あたりが学校ぐるみでやろうというところがある。だから、いろいろお考えいただければと思う。

(尾崎国体推進担当課長)

幅広く呼びかけをしていきたい。

(本川議長)

準備万端、どうぞよろしく願います。

ほかにご質問あるか。なければ、2番目の文化財センター企画展について、願います。

## (2) 文化財センター企画展について

(天野生涯学習課長)

文化財センター企画展についてご報告する。こちらは前回の会議においてご案内したものが終わったので、その報告である。開催期間としては、平成25年4月2日から5月6日までの31日間となっている。企画展については、毎年2回春と秋に行っており、春については名勝小金井（サクラ）にちなみ、名勝小金井（サクラ）展ということで、江戸時代から花見の名所として世に知られた玉川上水堤の小金井桜について、錦絵、絵はがき、写真、文献等、多くの資料によってたどるという内容になっている。

期間中の来館者数であるが、内訳は資料のとおりであるが、合計として、個人の方が344名、団体が155名で合計499名が来館されている。1日の平均としては、16.1人という形になっている。

ちなみに、昨年と同じ企画展の際の来館者数だが、個人については、同じく344名、団体については239名で、合計が583名となっている。開催日が1日多い関係もあるが、若干昨年のほうが多い結果となっている。1日の平均で比較すると、今年度は16.1人に対して、昨年が18.2人ということなので、1日の平均で考えても若干減少しているという結果となっている。以上である。

(本川議長)

ありがとう。何かご質問あるか。

ないようなら、第18回ウォーキングフェスタ東京ツデーマーチについて、願います。

## (3) 第18回ウォーキングフェスタ東京ツデーマーチについて

(天野生涯学習課長)

第18回ウォーキングフェスタ東京ツデーマーチについてご報告する。こちらは、平成25年5月3日金曜日及び4日土曜日に、都立小金井公園のいこいの広場を中央会場として開催したウォーキングの大会である。

参加者については、資料の4番に細かく内訳が載っているが、合計として、1日目が5,338人、2日目が5,113人で、合計が1万451人という状況である。こちらは、昨年については、1日目が5,033人、2日目が5,782人、合計で1万815人であるので、昨年と比較すると約360名ほ

ど減っている感じではあるが、こちらはほぼ同等の規模で行われている。

2日目について、JR中央線の事故の影響で、スタートの受け付け時間を延長するなどの対応をとったりはしているが、参加者そのものについて、大きな事故とか、けが等なく無事に終了したのでご報告する。

それと、中学生ボランティアにも参加いただいております、申込者数66名のところ、当日学校行事が急に入ったりということもあり、実際の参加は57名。同じ生徒さんが2日とも来た事例もあるので、延べ人数としては、70名という結果になっている。報告は以上である。

(本川議長)

ありがとう。何かご質問あるか。

(佐野委員)

1万人近くの方が小金井にいらして、経済効果というのはどうなのか。

(天野生涯学習課長)

小金井の場合は、宿泊施設がない関係で、せっかく全国から2日にわたるイベントをやっても、その辺の経済効果はあまり期待できないところがある。

ただ、せっかく全国から人が集まるということで、今年は商工会さんとも連携をとり、商工会の方と、ファミリーコースという5キロコースはルートが2つあるが、そのうち1つが黄金井うまいもんコースということで、商店街を通っていただくコースを設定して、幾つかの商店に手挙げしていただきクーポンを配ったりとかいう形も、今回初めて試みている。

こちらについては商工会のほうで、参加していただいたお店にアンケートをとっていただくことになっているので、その結果も参考にしながら、また来年以降考えていきたいと思っている。

(佐野委員)

これは始まるときに、私がよく行くお店に割引券を出したらどうかと言っている。せっかく来てくれる人に。だから、そういうのを商工会で考えて、どこのお店に行っても割引券が使えるようにしてもらえれば、帰りにどこかお店に寄っていただいて、少しでも。せっかく1万人見えるのであるから、全部が全部小金井ではなくて、花小金井のほうから見える方もいらっしゃると思うが、せっかくやるので、少しでも経済効果があったほうがいいんじゃないかと。

この間、出店をやっただろう、駅のところ。ああいうのをドッキングさせてやるといいのではないか。余計なことであるが。

(本川議長)

せっかくの機会、こういうのも連携できるのか。

(尾崎国体推進担当課長)

当日は3日、4日とも、国体のPRということで、応援メッセージブースをつくり、呼びかけをしたが、あまり反応はよくなかったが、幾つかのメッセージはいただけた。

(本川議長)

何かほかにあるか。よろしいか。

(4)その他

(本川議長)

では、その他のところに移る。4番、その他、報告はあるか。放課後子どもプランであるか。

(樹委員)

平成25年度第1回の放課後子どもプラン運営委員会が4月26日に開催されたので報告させていただく。今年度の運営委員会から各学校の推進委員長さんたちが出席してくださるということで、大変にぎやかな、人数も増え9校、全部の推進委員長さんが来られていたわけではなかったが、皆さんの生の声が聞ける運営委員会が開催されたと感じた。

それぞれ、現場で頑張ってくださいっている推進委員長さんが、少しずつ、今まで思ってきたこととか、それから、市に直接要望したいこと等をお話しされていたので、これからますます運営委員会の中でもじかに現場の声を伺い、そこから市が直接いろいろな施策をとっていけるのではないかと期待をしている。次回は7月開催の予定となっている。以上である。

(本川議長)

いろいろな意味で活発化してきて、いろいろなことを情報発信できると思う。それこそ市民の力だと思うので、またよろしく願います。そうしたら、図書館であるか。

(小林委員)

小林である。

(本川議長)

願います。

(小林委員)

平成25年度第1回図書館協議会が、4月26日金曜日10時から図書館学習室であった。今年度は、一番大事なところで、図書館長から諮問が来ており、内容が貫井北町地域センター図書館分室の運営体制についてという諮問である。それで、7月には答申をするということで、同様に公民館運営審議会にも答申をする。公民館のほうにもやっているということで、体制につ

いてのことなものであるから、通常の5月、6月、7月の図書館協議会の時間だけでは時間が足りないこともあり、小委員会、また、視察も予定している。

この積み重ねをしながら、メンバーで答申を書面にてきちんと出すために、今ようやく始まったところである。ほんとに難しい答申は、これまでも何度も運営体制については、過去諮問があり、答申をしてきた経緯もあるが、このたびは貫井北町地域センター図書館分室という場所が、開設に向かうところであるので、ほんとにみんなで時間をやりくりしながら始まったところである。以上である。

(本川議長)

7月までか。

(小林委員)

はい。7月答申である。

(本川議長)

ご苦労である。ほかにあるか。

(天野生涯学習課長)

事務局から2点報告させていただく。

1点目が、平成25年2月23日に発生した空林荘の火災についてである。こちらの、その後の経過について報告させていただく。2月23日に建物については全焼していたところだったが、その後、警察、消防等の調査があった関係で、そのまま焼け跡がブルーシートをかけて残っている状況であったのが、3月22日に消防の最終の調査が終わり、取り壊してもよいという形になったので、その後準備を進めてきたところであるが、実際の建物の撤去について、4月30日から5月2日の3日間にかけて行った。

現状は、基礎だけが残されている状況である。基礎について、小さいお子さんとかが遊びに来た場合に、外側の基礎につまずいたときに、ちょうど内側にある石が頭に当たる位置関係にあるので、現状としては、周りに簡単なくいを打ち、ひもで囲って立入禁止という措置をとっている状況である。

当面の対応としては、ここに空林荘があったという説明板の設置等を考えている。将来的に復元するかどうかについては、検討の時間を要するものと思っているので、当面の対応として、そういったことを考えている状況である。空林荘のことについては以上である。

もう1点、教育委員会との懇談会の件である。今回の会議の開催通知のときにお渡しさせていただいたが、7月9日の教育委員会の後に、社会教育委員と教育委員との懇談会を行うということで、昨日行われた教育委員会の終了後に、委員長と最終的な打ち合わせをさせていただき、ご了承をいただい

ているので、ご報告をする。以上である。

(本川議長)

時間は。

(天野生涯学習課長)

時間は、1時半から教育委員会が行われるので、早くて2時ぐらいになるかと。

(西田生涯学習部長)

30分ぐらいで終わってしまうかもしれない。

(天野生涯学習課長)

早いと30分ぐらいで。だから2時ぐらいには始まるつもりでお集まりいただいたほうがいいかと思う。

(本川議長)

そのときによってスタンバイしていればいいということで。

(天野生涯学習課長)

そうである。8階については、会議室以外にはないようになっているのでエレベーター付近のあたりで待機していただくか、可能であれば隣の部屋を押さえて、そこでスタンバイしていただくというのも考えている。

(本川議長)

では、どこか場所を確保しておいていただくか、どうしてもしようがなければ、後ろの向こうの窓のところか。

(天野生涯学習課長)

エレベーター前の付近が、ほかの窓口業務をやっていたりとかいうフロアではないので、多少お待ちいただくぐらいのスペースは大丈夫かと思っているが、可能であれば隣の802の部屋を押さえておきたい。

(本川議長)

わかった。後でまたもう少し触れるが、どういうふうに持っていくかということをお打ち合わせさせていただきたいと思うので、だれとするのがいいのか。教育長か。毎回教育長とは話はしているが、こちらのスタンスを。

(天野生涯学習課長)

昨日、私のほうからは委員長と教育長と打合せをした。

(本川議長)

伊藤委員長か。

(天野生涯学習課長)

伊藤委員長と津幡教育長、それぞれに、趣旨としては社会教育委員のほうから、ふだんこういうことをしているという説明をさせていただき、その後、ざっくばらんにお話し合いをしたいということでお伝えはしている。詳細に

ついて、もし詰めたということであれば、私が窓口になるので、教育長とお話をしていただければ。

(本川議長)

毎年やっているのか。

(伊藤副議長)

毎年やっている。

(本川議長)

教育委員長とはお話ししていないが、教育長と毎回事前打ち合わせはしているので、その辺の調整はまた課長、よろしく願います。

ほかに何かあるか。いいか。

(伊藤副議長)

では、私のほうから、この間の都市社連協の定期総会についてご報告する。全体の流れとしては、幹事市の提案された事項について、全て総会の場で承認されたと解釈している。その後、来年度以降の新役員の方々の紹介もあり、第5ブロック関係だと、調布市が会計監査になっている。それから、来年度、平成26年度は小金井市が会計監査の役を引き受けることになっている。これは、当番制だが、ずっとぐるぐるやっている中で、いいとか悪いとか、自分から手を挙げるのではなくて、強制的に回ってくるということで、ご了承いただきたい。

(本川議長)

重複だが、3号議案で協議会会則の一部改正ということで、大分ここでももんでいただいたが、名称の変更等がある場合、理事会などで説明をするというのを、遠藤会長がおっしゃっていたので、私たちの意向が通ったかと思う。それで、後でいろいろありがとうということで、遠藤会長のほうからご挨拶があった。また5月29日によろしく願います。

以上